

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 2 年 12 月 23 日

公表:令和3年1月27日

事業所名 春日井市第二希望の家

| | | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|---------|---|--|----|-----|---|--|
| 環境・体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ○ | | ・出席人数が多いとトイレタイムや乾布摩擦時に部屋が狭く感じられ密になる時があるが、パーテーション等を活用し、スペースを有効に活用している ・人数が多い時は、プログラムによってアコーディオンカーテンを開け、広く活用している | ・声掛け等で誘導し、場所の確保に努める |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | ○ | | ・基準以上の加配加算の対象となる職員配置を行っている | ・子どもの特性や状況、コロナ禍による対応の変化で職員数が足りないと感じることがあるが、配置職員の中で質の高いサービスが提供できるよう改善の検討を行う |
| | 3 | 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている | ○ | | ・施設内はほぼバリアフリー化している ・情報伝達に関しては、必要に応じて全体周知の掲示板や機関誌で行うものと個別周知のものに分けて行っている | ・今後も必要に応じてバリアフリー化できていない箇所の改善を進める |
| | 4 | 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている | ○ | | ・床面に関しては年2回専門業者による薬剤洗浄を行っている ・新型コロナ対策として、共有部分の次亜塩素酸での消毒、おもちゃのアルコール消毒、玄関から幼児室まで絨毯マットを敷く等衛生管理を徹底している | |
| 業務改善 | 5 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | ○ | | ・日々の小ミーティング、月1回の検討会や幼児室ミーティングで情報共有を図っている | |
| | 6 | 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | ○ | | ・新型コロナの影響で今年度は保護者会は中止となったが、定期面談や個別相談でニーズの聞き取りや情報提供を行った | ・次年度以降、保護者会の開催を検討していく |
| | 7 | 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している | ○ | | ・毎年保護者に対して評価表を配布してその結果を情報公表している ・その都度、保護者会や面談等で出た要望等を検討して対応するようにしている | |
| | 8 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | | ○ | ・必要に応じて、関係機関と連携を取り、業務改善につなげている | ・今後も必要に応じて、関係機関と連携を取りながら、業務改善につなげていく |
| | 9 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | ○ | | ・定期的に内・外部の研修に参加し、スキルアップを図っている | |

| | | | | | | |
|----------|---|---|---|---------------------------------|---|---|
| 適切な支援の提供 | 10 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している | ○ | | ・定期面談、個別相談等で把握し、計画書に反映できるようにしている | ・保護者のニーズに合わせて、面談の時期を設定し対応していく |
| | 11 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | ○ | | ・独自のアセスメント表、遠城寺式・乳幼児分析的発達検査表を利用し、状況を把握している | |
| | 12 | 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている | ○ | | ・新任職員に、児童発達支援ガイドラインを基に、計画書の作成方法を指導している | |
| | 13 | 児童発達支援計画に沿った支援が行われている | ○ | | ・常に支援計画書に沿ったサービス提供を心掛けており、職員間の日々のミーティングで情報共有を図っている | |
| | 14 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | ○ | | ・児童発達支援管理責任者を中心に、月1回の幼児室ミーティングで立案している | |
| | 15 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | ○ | | ・子ども達の特性や状況を把握しながら制作等新しい物を取り入れ実践している ・他施設との情報交換を通してプログラムの多様化を進めている | |
| | 16 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している | ○ | | ・子どもの発達状況に応じて個別活動と集団活動をバランス良くプログラムに取り入れている | |
| | 17 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | ○ | | ・当日の天候、参加人数、利用児の状況に応じて支援内容、当日の職員の動きを確認している | ・今後も新型コロナウイルスの対策をしながら、業務がスムーズに遂行できるよう都度検討していく |
| | 18 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | ○ | | ・日々、支援終了後に支援の状況や気付いた点を共有している | |
| | 19 | 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | ○ | | ・日々、ケース記録の記入、支援に関する情報共有を行っている | |
| 20 | 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している | ○ | | ・定期的に面談を行い、計画書の達成度の確認を行っている | | |
| 21 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | ○ | | ・今年度は無かったが、例年児童発達支援管理責任者が参加している | | |
| 22 | 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている | ○ | | ・就園先、保健師、行政との連携を積極的に取り、情報共有している | ・計画相談移行に向けて、相談支援センターとの連携も密に取っていく | |

関係機関や保護者との連携

| | | | | | |
|----|--|---|--|---|--|
| 23 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている | ○ | | ・今年度、該当児がおらず、行っていないが、該当児が通所している際は、他の利用している関係機関に見学に行き、情報共有や交換を行い、連携した支援を行っている | |
| 24 | (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている | ○ | | ・今年度、該当児がおらず、行っていないが、該当児が通所している際は連携した支援を必要に応じて行っている | |
| 25 | 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | ○ | | ・今年度は新型コロナの影響で園庭開放が中止となったが、行政に依頼し、第一希望の就園先のみ保護者見学に行かせてもらった ・年2回保育課主催の保育審査会に参加したり、療育支援事業で情報共有を図っている | ・園庭開放の開催状況を見ながら、就園希望先と連携を取り、情報を伝えていく |
| 26 | 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている | ○ | | ・今年度、該当児がおらず、行っていないが、該当児が通所している際は必要に応じて行っている | |
| 27 | 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | ○ | | ・自立支援協議会の研修に参加している ・近隣の尾張北部圏域の母子通園施設と定期的に定例会を行い、情報共有を図っている | |
| 28 | 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | ○ | | ・今年度は新型コロナの影響で中止となったが、毎年保育園の園庭開放に参加して交流を行っている | ・園庭開放の開催状況を見ながら、参加を検討していく |
| 29 | (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している | ○ | | ・今年度は新型コロナの影響で中止となったが、自立支援協議会の研修等に参加している | |
| 30 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | ○ | | ・定期面談、個別相談の時間を設定し、相談できる環境を作っている | |
| 31 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている | ○ | | ・親子通所。 ・母親教室、ファミリーデーで家族向けの研修を実施している | ・家族支援の一つとして実施している母親教室は、テーマや開催時期を検討しながら、今後も開催していく |
| 32 | 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | ○ | | ・契約時や利用開始前に伝えている | |

| | | | | | | |
|------------|----|--|---|--|--|---|
| 保護者への説明責任等 | 33 | 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている | ○ | | ・幼児室に「児童発達支援ガイドライン」を設置し、閲覧できるようにしている | ・ガイドラインについて、計画書の説明時等に保護者に再度周知を徹底していく |
| | 34 | 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | ○ | | ・定期面談、個別相談の時間を設定し、相談できる環境を作っている | ・保護者のニーズに合わせて、面談の時期を設定し対応していく |
| | 35 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | ○ | | ・今年度は新型コロナの影響で中止となったが、年1回保護者会を実施している ・母親ミーティングでOBと交流する機会を設けている ・OB会で構成される「ももやま会」とも連携を取っている | |
| | 36 | 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ | | ・施設内で解決できない場合は、他の機関と連携を図って対応している | ・内容や状況によって職員間で検討し、迅速に対応していく ・今後も定期的な面談の他、悩みや不安を話せる時間を随時設けていく |
| | 37 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | ○ | | ・毎月機関誌を発行し、行事の予定や情報提供を行うと共に、法人内のホームページのブログ等を通して活動内容を広く周知している | |
| | 38 | 個人情報の取扱いに十分注意している | ○ | | ・ケース記録等は事務室の施錠できる書庫で保管している | |
| | 39 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | ○ | | ・保護者に分かりやすい計画書の作成を心掛けている | |
| | 40 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | ○ | | ・今年度は新型コロナの影響で中止となったが、隔月で地域の関係者等とのちいき会議や夏まつり・合同防災訓練等を開催して地域に根差した施設運営を行っている | ・新型コロナウイルスの状況を見ながら開催を検討していく |
| 非常時等の対応 | 41 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している | ○ | | ・定期的にマニュアルに基づいた訓練を実施 | |
| | 42 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | ○ | | ・毎月火災又は地震を想定した避難訓練を実施している | |
| | 43 | 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している | ○ | | ・通所前に保護者から聞き取りを行っている ・健康管理チェック表で日々の体調について確認を行っている | |
| | 44 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | ○ | | ・通所前に保護者から聞き取りを行うと共に、保護者からの申告により対応している | |

| | | | | | |
|----|--|---|--|--|--|
| 45 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | ○ | | ・法人内で事例を共有し、事故の未然防止に努めている。ヒヤリハットがあれば必ず報告を受け、確認している | |
| 46 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | ○ | | ・毎年虐待研修に参加し、職員間で情報の共有を図っている | |
| 47 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している | ○ | | ・身体拘束を行う可能性がある場合には、必要に応じて行っていき、面談を通して計画書に記載している | |

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。